

ビットコイン入門 —1円から送る・使う・投資する— vol.10

『誰が、何のために作ったのか。誰かが儲けている？』

文 小田 玄紀 text by Genki Oda

さまざまな魅力があるビットコイン。そもそも、どうやって生まれてきたのでしょうか。

ビットコインは、2008年にナカモトサトシという人が自身のブログでビットコインの構想についての論文を発表したことを発端としています。

暗号技術を活用してお金を取引すること、中央集権ではなく、情報を分散させることでセキュリティを保つ分散型の金融取引という発想に基づき、ビットコインの開発が構想されたと考えられています。

その情報をナカモトサトシ氏が独占するのではなく、プログラムコードがオープンにされたことも大きな特徴です。実際にビットコインを開発したのはナカモトサトシ氏個人ではなく、ナカモトサトシ氏が作成したプログラムコードを使い、複数の人が開発したなどと考えられています。

プログラムコードをオープンにする、プログラムが改ざんされた際に発見が容易であるため、安全性が高まるというメリットもあります。

多くの人がビットコインを使うことによってナカモトサトシ氏が利益を得るということではなく、仮に彼がビットコインを持っていれば、人気が高まることでビットコインが値上がりし、利益が得られる可能性がある、という程



Profile

株式会社ビットポイントジャパン代表取締役社長
1980年生。東京大学法学部卒業。大学在籍時に起業し、後に事業を売却した資金を元にマッキンゼー出身者らと共に投資活動を始める。
「頑張る人が報われる」をコンセプトにして起業家や社会起業家の事業立ち上げ・経営支援を行う。株式、FX、債券などの投資にも精通し、仮想通貨取引にも携わる。2016年3月上場会社子会社として初の仮想通貨取引所であるBitpointを立上げ、同社代表取締役就任する。

度です。

では、なぜナカモトサトシ氏はビットコインを構想したのでしょうか。

実はナカモトサトシ氏についてはさまざまな情報があるものの、正体は明らかになっていません。日本人の名前ですが、本当に日本人なのかも誰も知りませんし、男性だという確証もなし。何のために作ったのかも論文には書かれていません。

世界に通用する技術なのだから名乗って名声を手にはすればいいし、お金儲けもできるはず……。どうしてそうしないのか、不思議な気もしますが、実はインターネットもこれに似ています。

約20年前、インターネットが登場した当時は、多くの人が「何それ?」「どうなっているの?」「危険性はないの?」と思ったはずですが、今はもう誰もが当たり前のようにインターネットを使い、ネットなくしては仕事も生活もできないくらいになっています。

人々の暮らしも仕事も変えた大きな技術ですが、実はインターネットも開発者が誰かわかっていません。ビットコインも、それに近いのではないかと思います。

誰が何のために作ったのかはわからない。

ただ、ビットコインで使われるテクノロジは確かなものであり、生み出されるビットコインには信用性がある。改ざんしようにも改ざんできない。時価総額が1兆円に届きそうな規模になるまで、ただの1度もプログラム上の問題が起きていない。

……ナカモトサトシ氏が作ったプログラムコードが本当に優秀であり、不特定多数の人が安心な通貨としてビットコインを認めている。それは間違いない真実なのです。

「1時間でわかるビットコイン入門」
「1円から送る・使う・投資する」
（株式会社インプレスより）